

日銀支店長が語る

経済よもやま話

第17回 生まれ変わりの旅



日本銀行仙台支店長 岡山 和裕

東北に赴任した時から行きたいところは多々ある。その中の一つが「出羽三山参り」だった。江戸時代には「西のお伊勢参り、東の奥参り」と言われていて、東の奥参り、すなわち出羽三山参りが推奨されていたらしい。

出羽三山とは、羽黒山、月山、湯殿山の三山だが、修行の地なのだ。そして、羽黒山は「現在」の山、月山は「過去」の山、湯殿山は「未来」の山と言われており、これらを巡ると「生まれ変わる」と言われているということを知った。

そうして、私も巡ることを開始した。

まず、行ったのは、「羽黒山」。羽黒山頂上の出羽三山神社には無事に行けたのだが、国宝の五重塔に行ってみると、何と屋根の瓦葺きを替える工事をしていて、五重塔が足組で覆われていた。もちろん、国宝の維持のための重要な工事なのだが、何と令和6年9月まで工事をしていると書いてある！

それまで見られないのかと、半ば諦めていたのだが、新聞を読んでいると、冬の間は足組を外すと書いているのではないか！ これを読むと居ても立ってもいられなくて、早速に羽黒山五重塔に向かった。そうすると、昨年冬は雪が少ないと言われていたが、行ってみると、そこそこの積雪。何回か滑りながら、何とか到達することができた。そうすると、杉並木に積もった雪がたまに落ちてきて、何とも荘厳な風景を体感できた。

次は、「湯殿山」。湯殿山は「語るなかれ、聞くなかれ」と言われ、「湯殿山で見聞きしたことは決して口外してはいけない。それについて聞いてもいけない」という掟があるらしい。松尾芭蕉も「語られぬ湯殿にぬらす袂かな」と詠んでいる。

このため、ここに書くことができないが、自然と信仰の結びつきを強く感じる場所だった。そし

て、この厳かな雰囲気を持ち帰りたいと思って、ご神体の一部が入ったお守りを買って帰った。

ここまではそこそ順調だった。ところがである。羽黒山、湯殿山はかなり近いところまで車で行けるのだが、残りの「月山」はかなりの登山が必要であることが分かった。標高1,500mまではリフトがあるのだが、標高1,984mの山頂までは自分の足で歩く必要があるのだ。しかも、登山が可能なのが7月頭から10月中旬までなのだ。それが分かった時はすでに、10月中旬を過ぎていた（笑）。

なので、翌年7月に山開きになれば、是非とも行ってみようと思っていたので、トライしてみた。標高差500mは大変だろうと思っていたが、運動不足の私には尋常ではなかった。最初は木道だったのだが、そのうちに石の道になり、最後の方はかなり急な石の道を手も使って登ることになったのだ。そして、かなり苦勞して、月山山頂に到着！ 景色も素晴らしいし、何とも達成感が半端なかった。

ところで、出羽三山参りをすると「生まれ変わる」と聞いていた。このため、同じ職場の同僚に「生まれ変わったのです」と話したら、周囲の人が、お参りを終了するまでの自分をどのように見ていたかが分かると思った（笑）。

その結果は…ご想像にお任せする。私には修行が必要なことは確かなようだ（笑）。

岡山 和裕氏 プロフィール

1969年（昭和44年）生まれ
兵庫県出身。本店15部署のうち8部署を経験したオールラウンダー。東日本大震災では、金融機構局で被災金融機関との連携役を担ったほか、熊本地震では決済機構局業務継続企画課長として現場を指揮。前橋支店長、業務局参事役等を経て、仙台支店長に就任